

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	名古屋汽船株式会社
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市港区入船2丁目2-28
工場等の名称	名古屋汽船運航タグボート
工場等の所在地	名古屋市港区金城ふ頭3丁目タグ基地内
業種	運輸業、郵便業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	名古屋港離着岸船舶に対する支援
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

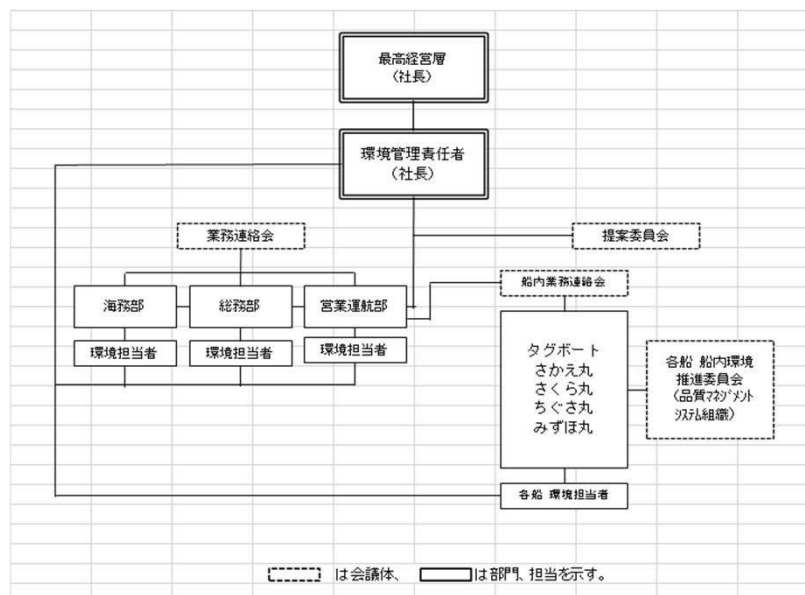
公表期間	令和4年6月24日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 本社事務所内
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	名古屋汽船 総務部		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- ① 消耗品の使用量を減らし、消費するエネルギーを節約します
- ② タグ・事務所からの排出物・廃棄物を減少させます。
- ③ 生物の多様性の維持に留意し、海水を汚染させません。
- ④ タグボートによる作業時に消費する燃料を節減します
- ⑤ 上記取り組みの有効性を確認し、更なるエネルギー効率の向上に努力します。
- ⑥ 関係法令を遵守し、環境に対する配慮を重視します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,061	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,061	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	2,061	t-CO ₂	2,030	t-CO ₂	1.5	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

エネルギー消費の抑制に全社的に取り組む事により、毎年0.5%の温暖化ガス排出量の削減を目指す
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
タグボート主機での燃料消費削減	主機運転に関わる燃料消費量をモニターし、出来るだけ回転数を上げない事と効率的な配船を行い燃料消費の削減を目指す。	定性的なモニターと現場へのフィードバック，並びに実績を踏まえての毎年の目標値（KPI）設定
節電	昼休みの際の事務所内消灯の励行、無人箇所の小まめな消灯、及び冷暖房使用時の事務所ドアの閉鎖	総務部を中心に実施
省資源	事務所からの一般廃棄物（可燃ごみ）削減努力と、紙リサイクルの推進	総務部を中心に実施 ゴミ・リサイクルの排出量モニター
教育・訓練	環境ボランティアへの参加を通し、社員全般の環境意識の向上に努める。	環境ボランティアへの参加
環境活動の推進	各船環境推進委員会の月例報告を基に環境活動を推進する	船内業務委員会の実施

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--